

開校記念日(聖カタリナの祝日)に寄せて



聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校では、4月29日を開校記念日としています。聖カタリナ学園の保護者である聖女カタリナは、14世紀にイタリアの小さな町シエナに生まれ、ドミニコ会のシスターとして33年間という短い人生を駆け抜けました。

カタリナが生きた14世紀は教会内の分裂やペストの流行で多くの人々が亡くなり、ヨーロッパ社会全体が苦悩の時代でした。このような状況の中でカタリナはさまざまな苦しみを背負った人々の救い、また混乱した国家間の平和のために奔走し、自らの命を捧げつくした女性です。伝記によれば、彼女が幼少のころは「ユーフロジナ(喜びの子)」と呼ばれ、大人になってからはあらゆる世代の人々から「マンマ・ミーア」(私のお母さん)と慕われていたそうです。誰からも愛され周囲に喜びをもたらすユーフロジナ、また相手の幸せのためにすべてを受け入れ、赦し、自らを捧げつくすマンマ……まさに 聖カタリナの生き方は愛そのものでした。

今、世界は新型コロナウイルスの感染拡大の脅威に伴う多大な犠牲や痛みの中にいます。私たちの国も、不安や恐れ、その困難な状況を何とか乗り越えていこうとの動きが始まっています。それは希望です。しかしながら、コロナウイルスに感染された方に対する心ない言葉や差別には憤り、悲しみを感じます。恐れや不安、怒りや痛み……絶望的な状況に陥らないためにも聖女カタリナの生き方に学びましょう。出会う人々に喜びを、平和を、そして苦しんでいる人々とともに寄り添い、手を差し伸べることのできる母の心をもてますように。光ヶ丘で学ぶ私たちが自分の置かれた場所で、自分らしい「愛の種まき人」となれるよう、学園の保護者である聖女カタリナのご保護を願いましょう。

光ヶ丘の生徒の皆さん、特に新入生の皆さんにとって入学後はじめてカタリナホールで行われる行事、聖カタリナを讃え、祈りを捧げる「開校記念ミサ」が中止になったことは、本当に残念です。シエナの聖女カタリナの祝日には光ヶ丘で学ぶ生徒たちとその家族、光ヶ丘で働いてくださっているすべての教職員とその家族の幸せを願いながら、修道院よりシスターたちと祈りを捧げます。一日も早く、学校で元気な皆さんと会えますように……。



シエナの聖カタリナ

聖女カタリナ

あなたは病に苦しむ多くの人々に献身的に尽くし、いつも彼らとともにいました。

私たちが利己的な慰めを求めることなく、隣人の必要のために無私の愛を持って尽くす勇気をお与えください。

アーメン

校長 シスター マリア 小林三佐子